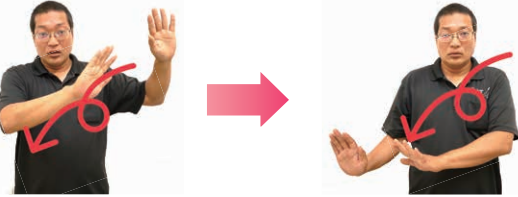


「すぐ」使える手話講座

手話は言語です。日常で簡単に使える手話を紹介します。今回は、台風とお月見の手話です。皆さんも使ってみてください。

台風

①両手の手のひらを開いて前に向け、左上から斜め下へ円を描きながらおろします。台風の風が吹く様子を表しています。



お月見

②右手の親指と人差し指を使い、上の方でゆっくりと三日月を描きます。
③右手の人差し指と中指で輪を作り、目の近くから斜め上へ向けて動かします。指先で月を見つめる様子を表します。



次回の手話講座は、広報つるが 11 月号（10 月 13 日発行）に掲載します。お楽しみに！

ウォンボムさんの敦賀研修ダイアリー Vol.3

姉妹都市である韓国東海市と職員相互派遣事業を行っています。今年は、東海市から 20 人目の研修員として、金源範さんが、11 月まで市役所で研修を受けています。



6 月は文化・交流推進課、市立博物館、みなとつるが山車会館、敦賀ムゼウム、総合運動公園で研修を受けました。敦賀のいろいろな場所を巡り、とても意味のある時間を過ごしました。

西福寺では、大規模な修理中だったにもかかわらず、その雄大さに圧倒されました。修理が終わった後の姿が、今からとても楽しみです。柴田氏庭園から見た池と周りの自然の景色も深く心に残り、昔の日本の建築の美しさを直接目にする貴重な機会となりました。

敦賀ムゼウムでは、昔、ポーランドの孤児やユダヤ人の難民を温かく受け入れた敦賀市民の包容力と人類愛が、胸に深く響きました。

市立博物館、みなとつるが山車会館、敦賀ムゼウムでは、展示の案内板やパンフレットの韓国語翻訳の仕事を任せられました。自分が関わった翻訳が完成したのを見たときは、大きな達成感と嬉しさを感じました。困っていた外国人観光客に対する山車会館スタッフの温かい親切心はずっと心に残りそうです。



追悼の心を、平和の力に

7 月 11 日 令和 8 年度敦賀市戦没者
戦災死没者追悼式

戦争により命を落とされた戦没者・戦災死没者 1,989 柱の御霊に哀悼の意を捧げ、恒久平和への誓いを新たにすため、プラザ萬象にて追悼式を執り行いました。式典では参列者が黙とうを捧げ、献花を行い、戦禍の記憶を胸に平和への思いを深めました。今年度は来場が難しい方にも追悼の機会を広げるため、初めてオンライン献花を実施、市民から寄せられたメッセージを会場内に掲示しました。米澤市長は「戦争の惨禍と平和のかけがえのなさを改めて胸に刻み、先人の不断のご努力によって築かれた敦賀市をさらに発展させ、未来を担うこどもたちへ確かな形で引き継いでいけるよう、全力を尽くしてまちづくりに取り組みます。」と述べ、戦争の記憶を次世代へ継承し、未来の敦賀を築く決意を表明しました。



生成 AI で地域の魅力を発信

7 月 11、12 日 「生成 AI × 動画制作
2DAYS キャンプ in つるが」

敦賀市役所で、中高生向けのデジタル人材育成プログラムが開催され、中学生 10 人、高校生 23 人が参加しました。このプログラムは、デジタルスキル（動画作成）の基礎を学び、生成 AI を活用して地域課題の解決や地域の魅力発信につながる動画制作に取り組むものです。1 日目は、AI や動画編集の基礎を学んだ後、CM や絵コンテの作り方を学び、アイデアワークショップを実施しました。2 日目は、オリジナル動画の制作に取り組み、完成した作品の共有会を行いました。気比高等学校附属中学校の橋本みちるさんは、「将来について早い段階から考えた方が良いと思い参加しました。2 本の動画を制作し、どちらも満足できる内容になりました。また参加したいです。」と話していました。



答えのない「問い」を探究

6 月 23 日 ハワイ大学関係者の
学校視察

ハワイ大学とハワイの小学校の教員らが、東浦小中学校などを訪れ、本市の p4c (Philosophy for Children) の取り組みについて、視察を行いました。p4c とは、こどもの哲学対話の略で、答えのない問いについて互いの意見を尊重しながら対話し、論理的思考やコミュニケーション能力を養う教育的アプローチです。東浦小中学校では昨年度から p4c を導入しています。高学年のグループでは、児童ら 11 人が輪になって座り「嘘をついても良いか、悪いかな」をテーマに p4c を実施。児童らは「相手を思っている嘘は良いのでは。」「悪いことから逃げる嘘と人を喜ばせる嘘は違う。」と対話を行いました。4 年生の坂本勇里さんは「ハワイの先生の発言を受けて、自分の意見を言えた。」と話していました。



合同訓練で連携を確認

6 月 25 日 海保巡視船と県警ヘリコプ
ターによる合同離着船訓練

海のレジャーシーズンを前に敦賀海上保安部と福井県警察本部は、若狭湾にて巡視船にヘリコプターを離着船させる合同訓練を行いました。訓練は立石岬から北西方向約 23km の若狭湾海上で実施。県警ヘリコプター「くずりゅう」は、巡視船「えちぜん」との無線や誘導員のハンドサインに従い、甲板上に離着船を 3 回繰り返し、互いに連携を確認しました。この訓練は、令和 4 年から実施し今年で 4 回目。災害時に孤立した集落の住民を巡視船に収容し、ヘリで陸地に搬送することや陸上のヘリポートが使用できない状況などを想定しています。敦賀海上保安部の長崎克明部長は「近年大きな災害が頻発する中で有意義であった。県警と連携を深めることができたのは大きな成果。」と話していました。



全国トップレベルの選手に学ぶ

6 月 17 日 競技かるた名人
敦賀高校かるた部を指導

競技かるたの第 65 ～ 67 期名人で全国大会 A 級優勝 55 回を誇る桑原圭太郎八段が敦賀高等学校かるた部を訪れ、福井県代表として全国高校選手権に出場する部員らに特別指導を行いました。桑原八段の訪問は、敦賀高校 OB で米国在住の競技かるた選手・ストーン睦美さんが企画し、実現。指導が始まると桑原八段は部員との模擬戦を披露、感想戦後は部員一人ひとりに構えや札の払い方の指導を行い「取り札に迷った時は狙いを絞ること。」などアドバイスを送っていました。桑原八段と対戦した 3 年生の上塚朱寿さんは「緊張したがすごくオーラを感じた。今日のご指導を全国大会に生かしたい。」と話していました。桑原氏は「強くなりたい気持ちが伝わった。全国大会頑張ってください。」とエールを送っていました。



北陸のハワイ 住民ら清掃活動

6 月 24 日 水島クリーンアップ作戦

海水浴シーズンを前に水島でクリーンアップ作戦が行われ、地元の色浜・浦底区民、松陵中学校の生徒、原子力事業者ら約 340 人が清掃活動を行いました。水島クリーンアップ作戦は色浜・浦底区主催で 40 年以上前から開催。参加者らは色浜漁港から渡し船で水島に上陸すると、島内を歩き回りながら、砂浜に打ち上げられたプラスチックごみや流木などを拾い集めていました。松陵中学校 1 年生の辻真生翔さんは「水島は敦賀の象徴なのできれいになってうれしい。」と話していました。色浜区長の中井健一さんは「水島には思い入れがあるので今後も守っていききたい。これだけ多くの方に参加してもらい大変ありがたい。」と話していました。